O2-003

保健師が継続支援するこども虐待ボーダーラインの生活環境

小笹 美子[1]、長弘 千恵[2]、外間 知香子[3]、
當山 裕子[3]、仲野 宏子[4]

[1]島根大学医学部 看護学科
[2]徳島文理大学保健福祉学部　看護学科
[3]琉球大学医学部　保健学科
[4]産業医科大学産業保健学部　看護学科

【研究目的】
こども虐待を予防するために、保健師等が継続支援をしているこども虐待ボーダーライン事例の生活環境と母親の実家支援の関係を明らかにした。
【研究方法】
1）研究協力者：保健師経験が5年以上でこども虐待ボーダーライン事例の支援経験が5事例以上あり、協力の同意が得られた保健師に調査を実施した。2）データ収集期間と方法：調査は2011年7月から2012年4月にインタビューガイドに沿って各保健師から2事例を聞き取った。調査内容は事例の概要、支援した内容等であった。面接状況はフィールドノーツに記録し、IC レコーダーに録音し逐語化して文字データとした。3）分析方法：分析は事例の記述統計を行いその後、母親の実家支援の有無別に2群に分けχ二乗検定を行った。統計的有意水準は5％とした。4）倫理的配慮：琉球大学倫理審査委員会による承認（2011年承認番号89）を得て調査を実施した。
【結果】
事例の提供を受けた29名の保健師の平均年齢は42.7歳、保健師の平均経験年数は17.1年であった。こども虐待（含む疑い）の事例経験数は10事例以上が76％であった。29名の保健師から58の継続支援事例を聞き取った。把握契機は幼児健診や新生児訪問など保健師活動から48.3％、関係機関（含む児童相談所）からの依頼36.2％、母親からの相談8.6％、地域からの相談6.9％であった。把握時の母親の平均年齢は29.0歳、パートナーの平均年齢は32.4歳、平均こども数は2.1人、平均家族人数は4.3人であった。こどもに疾病ありが34.5％で発達の遅れ、重度心身障害、発達障害等であった。母親に精神疾患ありが25.9％、母親に知的障害ありが25.9％、母親に10代の出産経験ありが22.4％、転入が27.6％であった。経済状況は生活保護受給が15.5％、生活困窮が39.7％であった。保健師の支援継続期間は平均51月、最長が30年、最短が4カ月であった。母親の実家支援有は48.3％、実家支援なしは36.2％、実家支援不明は15.5％であった。母親の被虐待歴（含む疑い）は実家支援有が17.9％、実家支援なしは52.4％で有意な差があった。
【考察】
保健師は生活弱者の母親を継続支援していた。実家からの支援がない母親が4割以上いた。被虐待経験（含む疑い）のある母親が実家から育児支援を受けていないのは、両親の離婚等によって育児支援を期待できる身内がいないためや実家が母親にとって安心して支援依頼できるところではないためと考えられる。

O2-004

キャリア男性およびそのパートナーとなる女性が結婚に際し HTLV-1 情報が現状で十分得られるか ～看護学生への模擬状況下での回答から～

根路銘 安仁[1]、山本 直子[1]、水野 昌美[1]、
田中 一枝[1]、若松 美貴代[1]、井上 尚美[1]、
河野 嘉文[2]

[1]鹿児島大学医学部 保健学科 看護学専攻 成育看護学講座
[2]鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　小児科学分野

【背景】
2010年より HTLV-1総合対策が実施され、母子感染対策が全国的に行われている。そのため、今後導入により事前にキャリアと知っている男性も増え、相対的に性行為感染者の割合は増えると考えられる。現在HTLV-1性行為感染に対する evidence が不足しており、キャリア男性およびそのパートナーとなる女性が結婚に際し HTLV-1情報が現状で十分得られるかについては明らかでない。今回、看護学生に模擬状況下で、十分な情報が得られるか、その結果、結婚観にどれくらい影響を与えるかを明らかにする。
【方法】
本学看護学生に対し、「キャリアでは無い女性が、結婚予定の男性から HTLV-1キャリアと伝えられたと仮定してネット検索をさせた。知りたい情報項目のネット上での納得できた具体的な情報源、「検索して欲しい情報は充分えられたか？」（0点：全くなかった→10点：充分あった）、「結婚に際し、HTLV-1キャリアという事項はどの程度影響するか？」（0点：全く気にならない→10点：かなり気にする（結婚しない））で回答させた。結果を学会等で報告することを伝え、拒否の機会も確保した。また、内容や拒否について成績には影響しないことを説明した。
【結果】
回答数は78人（男10：女68）であった。知りたい情報項目をネット検索で納得できる情報源として25のサイトを挙げていた。上位6つのサイトを5人以上が挙げていた。他の19サイトは1～2人の回答であった。「検索して欲しい情報は充分えられたか？」に対しては平均8.3（中央値8）であり比較的情報は得られていた。「結婚に際し、HTLV-1キャリアという事項はどの程度影響するか？」に対しては、平均3.9（中央値3）と比較的影響が少なかった。また、情報が得られたと満足する度合が高いと結婚への影響度は低かった（$p<0.01$）。しかし、影響度が高いとした方がより多くのサイトを閲覧していた。多くのサイトを見ていた学生のコメントからは、サイトでは不十分で医療者からの情報提供の希望があった。
【結論】
情報を得ることで結婚観への影響は低まっていた。サイト検索でも情報はあることができていたが不十分な対象者もおり、医療者から提供を受けられる体制作りも考慮する必要がある。

Presented by Medical*Online